

|            |               |          |
|------------|---------------|----------|
| 20220307 号 | そら豆           | 所長 南浦秀史  |
| 20220314 号 | 電子決済          | 副所長 土佐憲弘 |
| 20220321 号 | 豊盛里（フォンションリー） | 秘書 孫芸    |
| 20220328 号 | とても静かな上海の道路   | 所長 南浦秀史  |

## そら豆

春節が明けた 2 月中頃から、上海のスーパーの棚にそら豆が並び始めました。中国では蚕豆といいます。私のよく行くスーパーでは、1 キロで 14.5 元(約 260 円)。剥いて豆だけのものも 200 グラムで 14.9 元(約 270 円)です。日本で買うよりも少し小ぶりですが、大きさも不揃いですが、ビールの友に塩ゆでそら豆が好きな私としてはたまりません。少し生活に余裕のある週末になると毎週買って来て湯がいています。考えてみると、大阪では夏前ごろから出てきて、夏の暑いときのビールのおつまみという印象でした。中国は国土が広いですから、今スーパーに並んでいるのは南の雲南省産のものだそうです。

そら豆が日本に伝わったのは 8 世紀、大阪にある日本最古のため池・狭山池の改修にも携わった行基が中国から伝えたという説があるとか。中国では 1 世紀にその記録があるそうですから、すでに 2000 年の歴史があります。

当然、様々な料理に使われます。日本でも有名な辛い中華味噌の豆板醤は、そら豆を発酵させてつくられたものです。とりわけ有名なのは、魯迅の短編小説「孔己乙」に出てくる茴香豆ではないでしょうか。茴香豆はそら豆を紹興酒と醤油と八角で茹でたもので、香川のしょうゆ豆とよく似ています。小説では 10 銭の熱燗に 1 銭を足すと茴香豆の皿盛りが出てくるという代物で、子供たちが一粒ずつもらって、食べた後も立ち去らないということから、どんなに馳走なんだろうかと思っていました。いま、大人になって、その良さをしみじみと味わっています。上海に来たら、紹興酒の熱燗とともに茴香豆を是非召し上がってください。



---

## 電子決済

---

今年から副所長として赴任しました土佐と申します。大阪企業の皆様の中国ビジネスのお役に立てるようがんばりますので、よろしくお願いします。

1月28日に成田を発ってから2月18日まで3週間の上海市内のホテルでの隔離を経て、ようやく中国での業務がスタートしました。中国には人生で初めて来ましたので、日本での生活との違いに驚く場面がたくさんありますが、とりわけ QR コードを利用した電子決済の体験が印象的でしたので、ご紹介します。

中国では電子決済が普及しており、ほとんどのショッピングは、スマートフォンを利用した電子決済で行われています。中国に来てみるまでは、財布を持ち歩く必要がないと先輩駐在員から聞いていたものの半信半疑でしたが、中国で生活を始めてみると、日常的に現金よりもスマートフォンで QR コードを利用して決済しています。

この電子決済は大型商業施設はもとより、小型店舗や屋台などあらゆるところで利用可能で、中国で開設した金融機関の口座を WeChatPay や Alipay といった中国で主流の電子決済アプリに紐づけて使用します。中国の金融機関口座が無い場合には、Alipay が提供する外国人用の電子決済サービスに日本の金融機関口座を紐づけて対応することになります。

便利な反面、スマートフォンを持っていない人や電波を受信できない場合には支払いが難しくなりますので、現在中国政府が実証を進めているスマートフォンに媒体を限定せず、電波を受信しなくても利用が可能なデジタル人民元など中国のキャッシュレス動向を注視していきたいと思います。



---

## 豊盛里（フォンションリー）

---

今回ご紹介するのは、上海のランドマークを代表する静安別墅(ジンアンビエショウ)から壁一枚隔てたところにある「豊盛里」です。静安別墅と同じく南京西路のビジネス街に位置しています。地下鉄 2、12、13 号線「南京西路」駅 13 号出口、14 号出口が最寄りです。

5 年前にオープンしたリノベーションスポット「豊盛里」は大型ショッピングモール、オフィスビルが立ち並ぶ活気のあるエリアで、年間を通じて多くの国内外のお客様が訪れます。上海の第 2 の「田子坊」のような人気スポットです。でも、田子坊と違って、ずっとスタイリッシュです。また、知名度の高い新天地とは異なり、より親しみやすくより手頃に楽しめるお店が多く、カジュ



アルな雰囲気なので 20 代の若者が多く利用しています。仕事のランチに訪れるホワイトカラーも多く、ランチタイムは非常に混雑しています。

「豊盛里」という名前は住宅だった当時のエリア名です。開発が始まったのは 2014 年、当時デベロッパーが約 11,000 平米のこの敷地を 10 億元(約 171 億円)で購入したことが話題になりました。敷地内には 9 棟の建物があり、それぞれに人気満点のテナントが入っています。

個人的なお勧めは京都発の石窯焼きベーカリー「Briant」で、塩パンがおいしいです！ビール好きな方へのお勧めは、シカゴ発の「グースアイランド」。ここだけのオリジナル自家醸造ビールもあります。上海人女子に人気なのは、伝統的なスープとご飯の定食が大人気の「ートン(火へんに屯)」私も通るたびにランチで利用しています。

今回は紹介しきれなかったお店もまだまだたくさんありますので、このレポートを読んで関心をもたれた皆さんは、ぜひ、「豊盛里」まで発掘にいらっやてください。



---

## とても静かな上海の道路

---

私が初めて中国に来たのは 1992 年、まだ大学生のときでした。上海には虹橋空港しかなく、虹橋空港から隣の江蘇省の蘇州まで砂ぼこりが舞う道路をまるで F1 ドライバーかと思うような運転をするドライバーが、クラクションをずっと鳴らしながら、車や自転車、人をかき分け猛スピードを出して運転するのをハラハラしながら見ていた記憶があります。

いまの上海にその当時の面影はまったくと言っていいほどありません。その原因の一つは、E V がたくさん普及しているから。車も原付も静かに走っています。もう一つは、クラクションを鳴らす人がいないから。上海市内では、クラクションを鳴らすと罰金が科されます。取り締まりも、自動のようで、どの車が違法にクラクションを鳴らしたかがカメラで判別され、ナンバープレートと紐づけられて罰金が科されるようです。交差点には、違反者のナンバープレート名がデジタル掲示されています。

クラクションを鳴らさなくなると、交通マナーはよくなるようです。相手に注意を促すためにパッシングをすることはありますが、音がしないので、威圧感はありません。道路の真ん中で、あまり運転が上手でない人がもたもたしていても、じっと我慢して待っています。

